

主な市政報告

◇新型コロナウイルスワクチン接種事業

2月1日時点での接種状況は、初回接種2回目で91・38%、追加接種3回目82・64%、4回目63・26%となっています。オミクロン株に対応した新型コロナウイルスワクチン接種については、初回接種2回を完了した12歳以上の方で、追加接種3回目および4回目の接種から3カ月以上経過した全ての市民を対象に、10月から集団接種および個別接種で実施して、接種率は58・66%となっています。

集団接種については2月19日をもって実施を終了し、その後は臨時の接種期間である3月31日まで市内医療機関での個別接種を実施しました。

◇市税の状況

1月末における市税の現年課税分調定額は、個人市民税が9億9、169万円、法人市民税が1億1、950万円、固定資産税が14億6、776万円となっています。令和5年度市税の現年課税分予算については、個人市民税が9億7、630万円、

法人市民税が1億2、663万円、固定資産税が13億9、398万円と見込んでいます。

個人市民税はいまだコロナ禍の影響があるものの、製造業は好調な動きがあり給与所得が増加傾向にあるため、前年度当初比で約1%（約943万円）の増と見込んでいます。法人市民税はコロナ禍前の令和元年度調定額まで回復の傾向にあり、前年度当初比で約38%（約3、519万円）の増と見込んでいます。固定資産税は土地の評価額は依然として下落傾向にあり、家屋は若干の増加があるものの、償却資産もコロナ禍の影響で新たな設備投資を見込めない状況にありますが、前年度とほぼ同額と見込んでいます。

◇ふるさと納税

令和4年度のふるさと納税は、令和5年1月末時点で件数が41、602件、寄付額は前年度比4%増の9億471万1、285円となっています。

今年度は減少傾向が続いていましたが、12月に入り多くの寄付を頂いたことにより、前年度比で若干の増額となっています。件数は減少していますが、米の返礼品が好調なことが寄付金の増額に繋がっているため、引き

引き続き動向を注視していきま

◇移住・U・ターンの促進に向けた取組み

令和4年度、首都圏で開催された各種の移住定住イベントに出展し、移住関心層へ本市の魅力を積極的に発信しています。1月に東京で開催された全国規模の移住イベントにも出展し、移住リエゾンとともに「かほの魅力」を伝えたほか、移住相談に乗るなど本市への移住希望者を増やすための取り組みを進めています。またオーダーメイド型の移住体験ができる「お試し移住体験ツアー」を実施し、賃貸物件の内見や地元スーパー、子育て支援センターの見学など、市の雰囲気や日常生活をイメージしていただき一人でも多くの方が安心して本市に移住していただけるよう取り組みました。

今後移住希望者支援サイト「にかほーむ」による情報発信や移住セミナー、イベントの開催、地方移住への不安の相談など、きめ細かいサポートをし移住支援に取り組みしていきます。

◇スケートボード施設の整備

竹嶋潟エリアで整備を進めているスケートボード施設（スケ

続き米の定期便など既存商品のブラッシュアップや時節のニーズを捉えた新規返礼品の開発に取り組み、さらなる寄付の増加に向けた取り組みを進めていきます。

◇マイナンバーカードの普及促進

令和5年1月末時点における本市の申請率は66・17%、交付率は57・6%となっています。国においては令和4年度末までにほぼ全国民に行き渡ることを目指し、マイナンバーの付与やマイナ保険証の導入など、マイナンバーカードの普及に取り組みしています。本市においても、庁舎や商業施設などでの申請サポート業務や休日と平日夜間の申請と交付のほか、自治会等への出張申請サポートを実施するなど普及促進を図っています。

マイナンバーカードはデジタル社会に必須のインフラであることから、さらなる交付率向上の取組みを進めていきます。

◇小砂川保育園の閉園

社会福祉法人共生会（きょうせいかい）が経営する小砂川保育園が令和4年度末を持ち、開設から66年、季節保育所として

ートパーク）は、4月8日のオープンを予定しています。なおこのスケートパークは、AOS（株）にかほ工場の隣接場所に整備して、昨年2月に同社からいただいた一般寄付金1、500万円を施設の整備財源として活用しています。

◇ブラウブリッツ秋田健康プロジェクト事業

1月21日と2月4日、エスパーク★にかほを会場に健康プロジェクト事業を実施し、2日間で約200人の方が参加しました。

今回はブラウブリッツ秋田と超神ネイイガとのコラボ事業により、ブラウブリッツ秋田マスコットキャラクター「ブラウゴン」も参加し、ネイイガー、ブラウゴン、にかほっぺんが勢揃いして会場は大変盛り上がりしました。「子どもと楽しく参加できた」「運動と食育の両方を学べてとても良かった」などの感想があり、自らの健康意識だけでなく、子どもたちの食育の向上にも繋がったものと思っています。

◇羽後交通小砂川線の廃止

羽後交通（株）から9月末で路線バス小砂川線を廃止したい旨の申し出がありました。

開設した昭和16年からは82年の歴史に幕を下ろすこととなりました。

これまで1、041人の卒園児を輩出してきましたが、近年は少子化の影響により在園児が定員に満たない状況が続いていて、令和4年度は在園児12人の内4人が遊佐町からの広域入所となっています。

これまで長い間保育を必要とする子どもたちを預かり、地域の児童福祉の拠点として運営していただきましたことに心から感謝を申し上げます。

◇令和5年度産米の「生産の目安」

平成30年度より主食用米生産は、数量目標の「配分」から「目安」へと変更され、にかほ市農業再生協議会が「目安」を設定し、需要に応じた米生産を推進しています。令和5年度産米の「生産の目安」は9、349トン、前年比91トンの増、面積換算では1、661ヘクタール、前年比19ヘクタールの増となっています。

今後も米価維持のため関係機関や団体と連携し、過剰な生産とならないよう取り組んでいきます。

地域住民にとって通勤や通学の手段にもなっている必要不可欠な路線であり、廃止時期の延期についてお願いした結果、11月末まで延期したいとの回答がありました。

今後は、にかほ市地域公共交通計画に基づき、関係団体と協議しながら、具体的な代替手段の検討を行うとともに、地域住民へ説明していきたくと考えています。

主な教育行政報告

◇にかほ市二十歳を祝う会

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1年延期となっていた「令和3年度にかほ市成人式」を「令和4年度にかほ市二十歳（はたち）」を祝う会」と名称を変え開催しました。

対象者279人のうち173人が参加し、友人や恩師との再会を喜びあう姿が非常に印象的でした。

令和5年度からは、対象年齢を20歳を迎える年度から21歳を迎える年度に変更して開催していきます。

◇象潟前川地区景観保全型ほ場整備事業
昨年11月25日、県はこれまでの調査内容と営農構想に基づいて計画した事業採択申請書を国へ提出しています。

事業採択は来年度早々を見込んでいて、営農事業として実施設計を行い、令和6年度から工事着手する予定となっています。

◇市内の雇用状況

ハローワーク本荘管内の有効求人倍率は、11月末現在で1・49倍となり、19カ月連続で前年同月を上回っています。しかし有効求職者数については、11月末現在で前年比3・5%、48人の増となっていますが、1月から11月までのほとんどの月で一昨年よりも低い水準となっていて、有効求職者数が有効求職者数を上回る月が続き全体としては売り手市場となっています。

一方企業側の有効求人数は、前年同月比で24・6%、150人の増となっていて、特に建設関係技術者や保安・警備員、電気工事者といった職種では人材不足が続いています。

特定の業種や企業に求職者が偏るなど、多くの事業者にとっては厳しい状況となっていて、